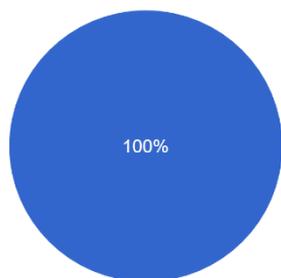


第2回講座（言語活動を通して（10/11 配信）の振り返り
（8名回答）

学習指導要領が示している「言語活動を通して」の意味が理解できましたか。

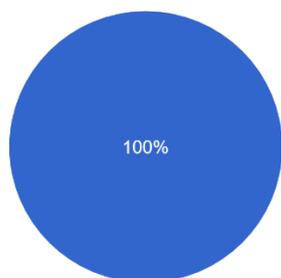
8件の回答



- とてもよく理解できた。
- まあ理解できた。
- あまり理解できなかった。
- 全く理解できなかった。

言語活動を行う上で「児童のことを知っていること...である」ということについて理解できましたか。

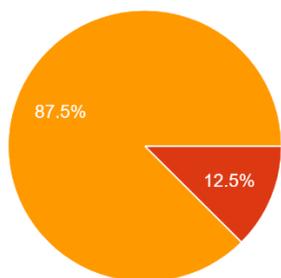
8件の回答



- とてもよく理解できた
- まあ理解できた
- あまり理解できなかった。
- 全く理解できなかった。

今回の講座の長さはどうでしたか

8件の回答



- 長いと感じた。
- 少し長いと感じた。
- 適切だった。
- やや短いと感じた。
- とても短いと感じた。

講座②を視聴した感想をお書きください。

- ①これまで、私達が学習してきたことがただの練習になっていたため、実際にどのような場面で使うと良いのかが分からず、使いきれない事が多くあったと思います。しかし、自分自身の気持ちを伝えたりしながら外国語を話す事で、色々な場面で使える事が分かり、児童も使いやすくなると思いました。今後の、言語活動に取り入れていきたいと思います。
- ②目的・場面・状況の提示例がとてもわかりやすく、会話の展開で学んだ言語を使用しながら素地をつけていく指導法に、とても理解できました。最近の単元では、6年生：we all live～? 5年生：where is～? 4年生：Do you have～? 3年生：what do you like?で各学年クラス色んな反応が見えます。それらのunit 題材に目的・場面・状況を身近に感じられ発話したくなるような場面を知りたいです。
- ③始まった頃の外国語活動との、授業の流れとは違うことはよく分かったが、伝えることって楽しい、間違ってもいいから伝えたいと、興味を持たせるようにするのがとても難しく感じるなと思いました。始まったころの指導は、繰り返し練習をしてから、相手に伝える活動。これからは、その表現を使いながら自然に覚えていく。言われていることは、分かるが英語に苦手意識がある子は、声を出すことすら難しいことと、そもそも興味がないのでリピートもしてくれない子もいます。だからこそ、その子達を知っている担任が指導したり、1回目の講座の外国語の伝え方につながるんだろうななど思いましたが、高学年だと場面や状況を設定しても取り組んでくれるかなと、思いました。ただ、今回の動画を見ることでこれからの授業の流れは見えてきたように思うので実践していきたいなと思いました。ありがとうございます。
- ④普段の授業から、目的場面状況を意識して、言語活動の場面を作るようにしていたので、今後も続けていきたいと思います。単元や内容によっては、状況設定が難しいものもあるため、児童に適した内容を考えていきたいです。
- ⑤どのような目的で場面や状況を考えて言語活動を行うかによって、子ども達の学習への取り組み方も変わってくるので、言語活動の設定のアイデアを考えることに私は時間がかかってしまっています。言語活動を行わせる場合、子ども達が持つ英語の言葉を把握していることで、思考を促すことができると考えています。とても分かりやすく、楽しんで学習しています。ありがとうございます。
- ⑥文法から入った中学校時代を思い出すと、こんなにも変わったんだという驚きです。確かにYes, No だけで答えていたけど、そうとも限らない場面の方が自然ですね。子どもの思

いを汲み取るって大切ですね！

⑦すっきりと分かりやすかったです。ありがとうございました😊

【担当者の感想】

単元や内容によっては、目的や場面、状況などの設定が難しいものもある、というご指摘について考えてみたいと思います。「目的や場面、状況」を設定した言語活動は「思考力、判断力、表現力」を育成する場面でもあります。ですから、思考力、判断力、表現力の育成には「目的や場面、状況」の設定が欠かせません。ところが「外国語活動・外国語の目標」をよく見ると、高学年以上の外国語では、「思考力、判断力、表現力」のところに「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて・・・」と書いていますが、中学年の外国語活動では、その文言が抜けています。中学年は外国語を学び始めたばかりです。そして語彙や表現の蓄えも多くありません。そのようなことを考えるとコミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、語彙や表現を選択して使ったりすることは難しいものと思われる。そのようなことから、中学年においては「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて・・・」という文言を目標から外したものを思われます。もちろん、「目的や場面、状況に応じて」という考え方を全く排除するというものではありません。

学習指導要領解説では「中学年の外国語活動において身に付けるべき資質・能力は、コミュニケーションを図る素地であり、育成すべき『思考力、判断力、表現力等』は、身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うことである。」としています。

さらに学習指導要領解説は「中学年では、英語で簡単な情報や考えなどを相手に理解してもらえるように表現したり、伝え合ったりすることを通して、コミュニケーションを図る資質・能力を支えるための素地となる力を育むこととなる。そのため、決められた表現を使った単なる反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にしたい。相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考えながら、相手と意味のあるやり取りを行う活動を様々な場面設定の中で行うことが重要である。」（下線筆者）と説明しています。

素地とは「完成してはいないが、後になって付け加えて完成するもの」（広辞苑）です。つまり、その方向を目指すのが、目標とするには難しいと考えられます。中学年段階では、決められた表現をそのまま言わせるのではなく、そこに自分の言いたい言葉を入れ換えて、必然性のある場面を設定し、伝え合うことを中心に行えばよいのではないかと思います。Zoomのオンラインで一緒に考えていきたいと思っています。

「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

目 標			
	小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
(知識及び技能)	(1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(学びに向かう力、人間性等)	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。